

No. 69

令和6年2月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312 E-mail:sizurosi@vesta.ocn.ne.jp http://www.shizu-roshikvo.jp/







老施協活動の原動力 ~仲間意識・団結力の大切さ~



静岡県老人福祉施設協議会 常務理事兼事務局長 谷 久

常務理事兼事務局長の深谷幸久と申します。静岡県 庁OBであり、4年前に着任してからこれまで、会員 の皆様には多大なご理解とご協力を賜り、この場をお 借りして厚くお礼申し上げます。

平成12年の介護保険施行に合わせて現在の老施協が スタートして、まもなく四半世紀を迎えようとしてい ます。この間、歴代会長をはじめ会員の皆様のご尽力 により、研究大会や各種研修会の開催、調査研究、広 報啓発、感謝表彰、災害時の相互支援など様々な活動 を通して、施設利用者のサービス向上、施設職員の資 質向上、そして本県高齢者福祉の増進に貢献してきま した。また、行政からの助成に頼らず、会費収入を財 源とした自主独立の経営を実現していることも評価さ れるところです。

種岡会長は、常々会員相互の仲間づくりの大切さを 訴えています。私も色々な活動に参加する中で、会長 の気持ちが分かるようになってきました。会員相互の 仲間意識や団結力の強さが、老施協の活動を牽引する 原動力だからです。特に委員会活動は老施協の要であ り、各委員が法人や施設の垣根を越え、お互いに協力 し合って団結することで大きな力となり老施協の活動 を支えています。コロナ禍での活動制限により仲間意 識が弱まり、組織の弱体化が危惧されます。今は、委 員会活動を出来るだけ早くコロナ前の状態に戻し、社 会の変化やニーズに対応した新しい取組を始める大事

な時期だと思います。

また、女性会員の参加促進も老施協の活性化のため に重要だと思います。昨年12月の理事会で、来年度か ら女性役員・委員の割合を2割以上とする目標が定めら れ、現在その人選が進められています。女性施設長が 多くない現状では、この目標達成も簡単ではないと思 いますが、目標が設けられた意義は大きいと思います。 女性役員等による仲間づくりの広がりや多様な目線で の事業推進が期待されます。新たに役員等に就任する 皆様には、積極的な参加をお願いしたいと思います。

老施協の主な活動の一つが行政への提案・要望活動 です。老施協の組織率は高く、業界代表として大きな 発信力がある一方、高齢者施設の状況や課題など現場 の声を行政に正確に届ける責任があります。各委員会 では、積極的にアンケート調査を実施するなどエビデ ンスに基づいた提案・要望に努めていただいています。 また、会員の皆様のアンケート調査への協力について も、回収率の高さという形で要望内容の信頼性アップ に貢献します。ここでも仲間意識・団結力が試されて います。

仲間意識や助け合いの精神は、自然災害や感染症な どの危機管理において特に大きな力を発揮します。平 成24年度には当時の石川会長のご指導の下、全国初と なる災害時の施設間相互応援体制の整備が行われ、そ の後の豪雨災害等で実践されたほか、新型コロナのク ラスター発生施設への応援職員派遣では種別を超えた 積極的な協力により県内高齢者施設の事業継続に大き な役割を果たしました。能登半島地震の発生で防災意 識が高まっている今こそ、施設間の相互支援の重要性 を再確認するとともに、防災対策の必要な見直しを行 う良い機会だと思います。

介護・福祉人材の確保対策や介護現場の生産性向上 などの取組が重要性を増す中、老施協の果たす役割は ますます大きくなっています。仲間意識や団結力を一 層強固にして、会員が一丸となって諸課題の解決に取 り組む必要があります。私たち事務局職員も、微力な がら老施協発展のため一生懸命努めてまいりますので、 よろしくお願いいたします。

特 集1

30年後も愛される施設に…



特別養護老人木一ム一空園 施設長 金 原 干 加

特別養護老人ホーム一空園は昭和60年に開設し多床室の80床、各居室には洗面台もないところがほとんどでトイレの仕切りはカーテン、お風呂場も大浴場に昔ながらのリフトが付き、脱衣所もスペースが無いという環境でした。職員の休憩室も無く、経年劣化で設備も修理が多くなり、建て替え移転の計画が始まったのは10年前だったと聞いています。



施設外観

浜松市が新築ではなく既存の施設の建て替え、移転に関して補助していただけることになったのは、浜松市老人福祉施設経営者協議会の皆様のご尽力の賜物だと深く感謝しております。東京オリンピックで資材高騰の中、新型コロナウイルス感染の影響もかなり大きかった時期に工事が始まり、建築から運営プロジェクトを遂行していきました。特に入居施設においては多床室から全室個室ユニット型の施設に変わっていくためそれに基づく導線や設備、備品なども現場で考え、出来る限り現場重視で取り入れていくことをしてきました。

そのためにCFC (CreatingFutureCare「未来のケアを創造する」の造語) 委員会を早々に立ち上げ30年



居室

後も愛される施設を目指すというテーマのもと現場中心で取り組んでいきました。基本はIT/ICTを駆使し業務効率化を図り、職員は人の手でしかできない心あるケアをしていこうという想いのもと、ハード、ソフト、システムの3つを整えていきました。委員会の中で「一空園のケア理念の創設」「研修・勉強会の実施」「介護機器選定」「マニュアル作成」等を実施し、特にIT/ICTの技術を生かしていくことの優先順位は高く、見守りセンサーの検討と共にナースコールと、介護記録すべて連動出来るものを考え、記録もコールも内線もスマホーつで出来るように、人の手でしか出来ないケアを丁寧に行うことを意識できるよう選定していき

Creating the Future of Care ~未来のケアを創造する~

①ソフト

②ハード

③システム

- ・理念の創設
- ・導線・ルート確認 ・介護機器選定
- ・職員配置・アメニティスタッフ
- ・マニュアルの作成
 - ・家具選定
- 業務検討



CFC委員会

ました。

介護課だけでなく多職種連携、管理者も含めユニットケアは施設全体で取り組むこと。その仲間づくりがこれからの施設運営に大きく関わってくると考えていました。多床室から個室のユニットケアに移行する大きな違いは大きな枠から小さな枠に変わること。ご利用者の状況は把握できやすいが職員が1人でケアする時間が長いため、孤独になりやすい。そこで自分のケアを話せる場がとても大切になってきます。

コロナ禍で薄くなってしまった職員同士のコミュニケーションを取りやすい環境を作るためにも職員休憩室のしつらえも力をいれました。ケアの理念に関しても「みんなで話し合うこと」を何度もしました。何を



職員休憩室

大切にしたいのか、譲れないものは何なのか、どうやって考えていったらいいのか。と展開の視点を5つ挙げ、ご利用者の想い、職員の想いを大切にし、ご利用者の可能性を引き出せるような視点や考え方をしていく。職員は自己研鑽、自分の成長、やれる可能性を広げていく「想いをずっと、可能性をもっと」のケア理念を決めました。5つの視点は考えるためのツールとして使えると思っています。

2023年3月21日に旧特別養護老人ホームー空園から ご利用者と共に移動して新しい介護老人福祉施設一空 園での生活が始まりました。当初、急激な環境の変化 でご利用者が混乱し事故がおきないかと心配でしたが、 そんな必要は全くなく、それもご利用者の可能性を大 きく感じる1つだったと思います。



ケア理念

新しい一空園ではCafé&BakerySORAで法人で初めて障がい者の就労継続支援B型事業所そらあいを開設しました。その方の特性を理解し就労を継続して出来るように社会とつなげる大きな役割だと思います。徐々にサービスのご利用者も増え、caféもベビーカーでの子供連れのママから近くの会社の男性陣や地域の方、退職した職員などいろいろな世代の方々に来店していただいています。Café&BakerySORAの場所で、毎月第三金曜日の夕方から子ども食堂「みんなの食堂そら」も開設し、運営しています。コロナ禍を経て新しい一空園がいろいろな方々と繋がって、みなさんが足を運んでくれる施設になるように職員皆で話し合いながらより一層努めていきたいと思っています。



Café & BakerySORA

特集2

令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰受賞

~創造的な介護ができるプロフェッショナル 介護人材の育成を目指して~



社会福祉法人ほなみ会 特別養護老人ホーム第二南風 施設長 川 島 理 恵

わたしたちはパーソンセンタードケアを目指しています。それは、入居者一人ひとりが「そのひとらしく」生きられるように援助することです。それを実現するためには、まず職員がまわりから大切に扱われ、新しい知識や技術を学び、チームとして力を合わせ、一人ひとりが「その人らしく」働ける環境が存在しなければなりません。



左から鈴木理事長、八木県健康福祉部長、松田センター長、筆者

パーソンセンタードケアを目指す中で、職員も「その人らしく」働くことが、とても大切なことと知ったわたしたちは、一人ひとりが自分らしい創造的な介護ができる職場環境を整える必要があると思いました。

例えば、経営者が掲げた目標に沿って事業計画を作 成する従来の方法ではなく、入居者の一番近くにいる 介護職員の意見が、ユニットの目標になり、その目標 を達成するためにヒエラルキーの上下を逆転させたよ うな組織のあり方と事業の展開を目指します。そのた めに個別面談を通して職員一人ひとりが「その人らし く| 自らイノベーションすることを啓発しています。 しかし、最初から全ての職員がこのような取り組みに 参画できるわけではありません。新入職員は、経験値 も知識も大きく違います。一律の研修システムでは、 その人らしい介護職員は育たない事と実感し、3年間 の研修システムを構築しました。また、プリセプター がマンツーマンで指導することで、安心して相談でき る関係を構築でき、私的な相談までできる仲間となり ました。さらにプリセプターが悩んだときに相談でき るアソシエーターを配置することで、限りなく自立し

た自走するシステムとなり、チームワークも向上しま した。成長した介護職員がケアプランや事業計画を考 えることで、さらなる成長にも繋がりました。

個々のニーズや状態に合わせ、創造的でその人らしい介護を実現させることは、わたしたちの理念であるパーソンセンタードケアを目指すうえで欠かせない要件であり、職員の専門職としてのモチベーションにつながります。そして公私ともに充実した真のライフワークバランスが実現すると信じています。

開設より20年間、法人理念を礎に取り組んだことで、この度の栄誉ある厚生労働大臣賞を頂戴し、誠に光栄に思います。これからも皆様方にお力添えを賜りながら、入居者も職員も『その人らしく』をテーマに掲げ、高齢者福祉事業に尽力してまいります。

【ヒエラルキー逆転イメージ】



【ヒエラルキー逆転型事業計画】

・職員個々の課題を確認 ・職員個々の目標を確認

・ユニットの課題の抽出・次年度の「やりたいこと」を確認

・各ユニット課題を共有・事業所の事業計画を策定

施設事業

・各事業所の事業計画を基に施設事業計画策定・全職員に事業計画を周知

・計画実施状況を個別でレポート作成し会議内で共有 ・実施状況を会議録で周知

・事業計画の進捗状況を確認 ・次年度計画に向けた調整

特集3

第13回オールジャパンケアコンテストに参加して



特別養護老人木一厶白扇閣施設長 久保田 和 宏

全国の介護従事者が集まり技能を競う「オールジャパンケアコンテスト」が令和5年10月15日に東京都板橋区の植村記念加賀スポーツセンターで開催され、白扇閣の介護職員望月早苗さんが食事分野(実務経験5年未満の部)にて優秀賞を受賞しました。

所属するデイサービスでは食事介助の機会はなく、 勤務終了後に他の部署からの応援もかけつけ練習を繰 り返し、チームでとった栄光です。

コンテストは、「介護の質の向上と地域の繋がりを 目指して」の理念のもとに、技能を競うだけでなく、 交流の場になればと、都心の高層ビルレストランから 夜景を見ながらの前夜祭から始まり、当日の表彰式ま で、参加者と運営者が一体となっておこなうすばらし い大会でした。

今回参加するにあたり、今までも出場し優秀賞を受賞されている特別養護老人ホーム菜の花の川口施設長

さんをはじめ職員の皆さんにアドバイスをいただき、 当日も応援をしていただきました。全国の皆さんとの 出会い、参加を後押ししていただいた川口施設長さん との出会い、すべてに感謝しております。



左手前が優秀賞を受賞した介護職員の望月早苗さん

【特 集 4

11月11日は「介護の日」 ~いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう~



静岡県老人福祉施設協議会 介護の日キャラクター 『ケアットちゃん』

11月11日の「介護の日」に合わせて、前日の11月10日(金)、3 支部(東部・中部(静岡県と共催)・西部(浜松市と共催))で街頭 啓発活動を4年ぶりに実施しました。

各地区では、当協議会の介護の日キャラクター『ケアットちゃん』(静岡駅では『ちゃっぴー』も応援)参加のもと、のぼり旗を立て、啓発用感染対策用品(除菌ウェットティッシュ)を2,000個ずつ県民の皆様に配布しました。



JR静岡駅 配布後の参加者集合写真



JR三島駅北口・南口 配布状況



JR浜松駅 コンコース 配布後の参加者集合写真

介護報酬改定に向けた要望活動

令和5年11月から12月にかけて、県内選出の国会議員 及び 自民党静岡県支部連合会厚生問題対策連絡協議会(以下「自民党厚生連」)、自民党安心して過ごせる高齢者施設を考える議員連盟(以下「自民党介護議連」)への要望活動を行いました。

令和5年12月7日

自由民主党静岡県支部連合会 厚生問題対策連絡協議会

会 長 良 知 淳 行 様 自由民主党 安心して過ごせる高齢者施設を考える議員連盟

会長 鈴木澄美様

静岡県老人福祉施設協議会 会長 種 岡 養 一

令和6年度介護報酬改定に向けた要望

高齢者福祉介護施設・事業所は、いわゆる2040年問題を控えて多様な地域特性の変化に応じて生産性向上や担い手の確保等の対応をすすめ、地域の介護と福祉を守っていかなければなりません。

一方、足元では長期化する新型コロナウイルス感染症及び物価高騰の影響で介護事業の経営が厳しさを増す中、物価高に対応する賃上げ機運の高まりにつれて異業種へ人材が流出するなど、人材難に拍車がかかっております。もはや法人(施設)の経営努力だけでは限界に来ており、今後、介護事業を休止・廃止する事業者の増加が危惧されます。そうなれば地域での介護サービスの必要量を充足できない、いわば地域の介護崩壊ともいうべき緊急事態を招きかねない状況に陥っています。

全国老施協の収支状況等調査によれば、令和2年度以降、特養の赤字施設の割合が4割を超えていたところ、令和4年度(速報値)では補助金を除いた場合で6割を超え、補助金を含む場合でも5割を超えるに至っております。

このような現下の危機的な状況を鑑み、以下の2点について要望いたします。

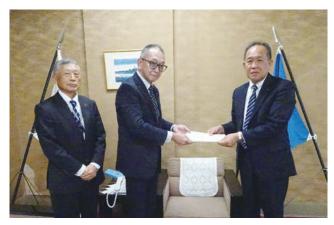
- ・光熱水費、食材費等の物価高騰への更なる対応、および介護現場で勤務する職員の処遇改善を 緊急に行っていただくこと
- ・令和6年度介護報酬改定において、物価・賃金の上昇に見合う大幅な介護報酬の増額によって、 我が国を支える高齢者福祉・介護の基盤を守るとともに地域共生社会の構築を進めていただく こと
- ※ 県内選出の衆議院・参議院の国会議員に対しても同様の要望書を提出しました。

自民党厚生連への要望



左から種岡会長、良知淳行県議(厚生連会長)、前田副会長

自民党介護議連への要望



左から前田副会長、種岡会長、鈴木澄美県議(介護議連会長)

令和5年12月県議会において、自民改革会議(自民党会派)からの提案により介護報酬改定等に関する 意見書が採択され、国会及び内閣に提出されました。

令和5年12月定例会意見書(令和5年12月21日可決)

診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬及び 保育等の公定価格の適切な改定を求める意見書

令和5年12月21日

提出先

 衆議院議長
 財務大臣

 参議院議長
 厚生労働大臣

 内閣総理大臣
 内閣官房長官

総務大臣 内閣府特命担当大臣(こども政策・少子化対策)

本文

少子・高齢化が急速に進展する中、国民が将来への不安を感ずることなく住み慣れた地域で、良質な医療、介護、障害福祉サービス、保育等が受けられる体制を構築することは極めて重要である。

しかし、医療機関、介護事業所、障害福祉サービス事業所、保育施設等では、長期化したコロナ 禍で感染対策に係る諸経費の増加に加え、電気代・ガス代・燃料費等の光熱費や食材費等、あらゆ る費目での物価高騰を受け、運営状況は著しく逼迫している。また、昨今、他の産業における賃上 げが進み、医療・福祉・保育関係従事者と全産業平均との賃金格差が拡大しており、人材の確保が より困難な状況となっている。

医療機関、介護事業所、障害福祉サービス事業所、保育施設等の収入は、診療報酬・介護報酬・ 障害福祉サービス等報酬及び保育等の公定価格などで定められており、患者・利用者負担へ転嫁す ることは困難である。

よって国においては、医療機関、介護事業所、障害福祉サービス事業所、保育施設等における物価高騰対策への支援及び人材確保に向けた処遇改善を図るため、来年度に実施予定の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定と保育等の公定価格の改定において、経営実態調査等により把握した物価高騰の影響や賃金の状況を反映した適切な改定を実施するよう強く要望する。以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

支部紹介(西部支部)

グリーンラベルグランプリ2023への挑戦 大は結びまた地域サケンター





特別養護老人ホームさぎの宮寮 施設長 **髙 杉 威一郎**



施設外観

消防庁が令和5年12月26日に発表した、令和5年1月~9月の総出火件数は28,825件。これを1日当たりに平均すると約106件、約14分ごとに1件の火災が発生している事になります。そして、静岡県は711件もの火災が発生しました。総出火件数ですので、林野、車両すべての火災を含んでの件数ですが、生活する事は火災と隣り合わせであることが分かります。

さて、さぎの宮寮(防火対象物)の点検を実施していただいている、中部防災工業株式会社様の推薦を頂き「グリーンラベルグランプリ2023」へ挑戦することとなりました。

「グリーンラベルグランプリ」とは、「消防用設備点検済表示制度」に基づき点検を実施し、消防用設備等を適切に維持管理し、取り組みを行っている防火対象物を表彰し、その取り組みを広く周知することで静岡県民の防火安全意識の啓発を図ることを目的としたものです。

初めて、消防の専門的な第三者機関の評価を受ける こととなり、福祉施設として、書類調査や現地調査の 際に何をアピールしてよいのか分からず苦慮しました。 しかし、事業計画書・事業報告書、防災計画、消防計画、防災対策委員会の会議録などなどを用意して当日を迎えました。調査は半日かけて書類チェックを実施していただきました。

訓練の企画(先駆的取り組み)、訓練の質についての質疑、BCPマニュアル、防火マニュアル、参加者、参加対象者などの調査を受けました。その中でも高く評価していただいたと感じていることは、年間約20回実施する防災訓練についてです。

開設以来、「思想しつつ祈りつつ共に生きる」を理念に、社会福祉法人の使命として地域住民と共に、利用者、家族が安心した生活ができる地域作りを進めてまいりました。その一つである防災訓練は初期消火訓練、スプリンクラー作動、発電機、避難所設営、炊き出し、HUG訓練(避難所運営ゲーム)、夜間火災訓練など多くの訓練の中から事業計画に沿って実施されます。コロナ禍では、地域の方との防災訓練は中止となりましたが、火災放送設備を流す事で、地域住民の方々も「火災に気を付けないと!」と思っていただければと、さぎの宮寮での訓練は実施してきました。



避難訓練の様子

この度、「グリーンラベルグランプリ2023」に挑戦 して、訓練とは地域住民、利用者、防災業者、職員な ど、多くの人の時間を頂戴して成り立っていると強く 感じました。防災訓練をすることは、前述したとおり 火災放送設備が地域に鳴り響きます。自宅で休んでい る方は迷惑だと思いますし、利用している方もドキド キした時間を過ごします。そして、訓練を実践する職 員は汗を流し、万が一にもあってはならない火災に対 して真剣に向かい合っています。多くの方の理解があ ってさぎの宮寮の防災訓練が成り立っていたと感じま した。

福祉施設として、初めてグリーンラベルグランプリ に挑戦してグリーンラベルグランプリ2023 "グランプ リ"を受賞できたのは、福祉施設は地域住民と共生す

令和4年度 防災訓練年間活動報告書

	実行月	参加人数		内容	
	天11月	職員	利用者	内 谷	
1	4月6日(水) 4月20日(水)	28名	_	消火器・消火栓・スプリンクラーの 取り扱い注意事項説明 初期消火訓練	
2	5月11日(水) 5月18日(水)	26名	_	大型、小型発電機の可動方法確認 消防署通報訓練	
3	6月1日(水) 6月15日(水)	24名	_	避難所運営訓練(HUG訓練)	
4	7月6日(水) 7月20日(水)	20名	_	備蓄品の確認 (食品倉庫・防災倉庫) パッククッキング	
5	8月3日(水) 8月17日(水)	28名		水害訓練	
6	9月1日(木)	49名	15名	情報伝達訓練 地震総合防災訓練 (避難訓練、消火訓練)	
7	10月5日(水) 10月19日(水)	18名	_	避難経路確認訓練(スロープ、初期消火) 夜間火災想定総合防災訓練について(説明)	
8	11月1日(火)	48名	12名	夜間火災想定総合防災訓練 (通報訓練、避難訓練、消火訓練)	
9	12月7日(水) 12月21日(水)	14名		テント設営訓練	
10	1月25日(水)	20名	_	BCP訓練(シュミレーション)	
11	2月22日(水)	16名	_	避難所運営訓練(HUG訓練)	
12	3月1日(水) 3月15日(水)	24名	_	停電時の備え、対応について	



消火訓練の様子

る事が可能であり、将来にわたって地域との防災活動 を実践することが期待されているからだと思います。 引き続き、老施協西部支部の一員として災害時におけ る支部内の連携体制づくりに力を尽くしつつ、地域の 方の理解と協力を得ながら防災訓練を実践して地域共 生社会を創っていきたいと考えます。

末筆になりますが、日頃より、ご協力いただいてい る中部防災工業株式会社様、利用者様、地域の皆様に は心から感謝申し上げます。そして、さぎの宮寮の職 員一人ひとりの防災訓練に対する真剣な姿勢が評価さ れ「グリーンラベルグランプリ2023」グランプリ受賞 に繋がりました事を光栄に思い感謝いたします。



グランプリ認定のクリスタル盾

委員会紹介

委員会活動報告 ~養護老人ホーム実態調査~



養護委員会委員長 養護老人ホーム 長岡寮湯の家 施設長 **菊 地 雅 秋**

養護委員会では、県内の養護老人ホームの実態を措置権者である市町と施設が共有し、養護老人ホームが地域社会におけるセーフティネットとしての役割を果たす資料として活用するため、毎年実態調査を実施しています。

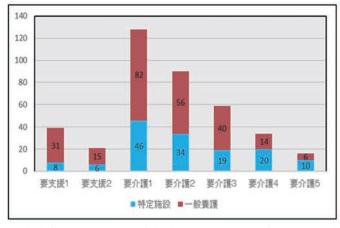
そこで、この紙面をお借りして養護老人ホームの現状を報告させていただきます。令和5年4月1日現在、会員養護施設(21施設)全体の定員は1,290人で、入所者数は996人、入所率77.2%です。11年前の平成24年の時点では、定員1,508人に対し入所者数1,430人で、入所率は94.8%でした。次の図表でも分かるように、定員の減少はもとより、入所者数の減少が顕著です。今後も入所者数の減少と定員の減少が相俟って、入所率の低下に歯止めがかからない状況となっています。

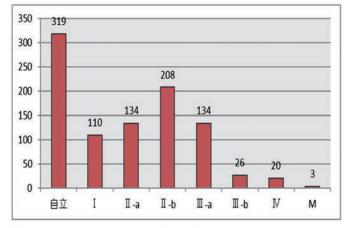
入所定員と現員数

H24 総定員	1,508	100%
R02 総定員	1, 448	100%
R04 総定員	1, 348	100%
R05 総定員	1, 290	100%
H24.04	1, 430	94.8%
H25.04	1, 360	90. 2%
H26.04	1, 342	89.0%
H27.04	1,306	86.6%
H28.04	1, 297	86.0%
H29.04	1, 254	83.2%
H30.04	1, 235	81.9%
H31.04	1, 233	81.8%
R02.04	1, 182	81.6%
R04.04	1,040	77.2%
R05.04	996	77.2%



一方、入所者の重度化の指標となる要介護度と認知症自立度では、要介護者の平均介護度は2.14で、認知症自立度では入所者の2割が自立度II以上との結果が出ています。





養護老人ホームは、高齢者にとっては生活を守る最後の砦であり、地域における高齢者福祉のセーフティネットとして必要不可欠の施設ですが、市町村からの措置委託がない限りその運営が成り立たない福祉施設です。

そうしたなかで、地方分権と三位一体改革により権限と財源が市区町村へ移譲されたことで、措置による財政支出を懸念する市区町村が措置に消極的となり、福祉的支援を必要としている高齢の被措置者が少なくなる、いわゆる"措置控え"が起きているとの指摘もあります。また一方で、養護老人ホームへの入所措置に関しては、介護保険制度の施行以降、行政内部でも介護保険を中心とした組織体制を強化しました。その結果、措置制度を熟知している自治体職員が減り、地域包括支援センターが設けられてはいるものの支援を必要とする高齢者の発見やアセスメントといった調査機能が脆弱になっている自治体もあり、潜在的なニーズの把握が懸念されています。

こうしたことによる被措置者数の減少(措置率の低下)は、養護老人ホームの存続に関わる問題です。県内市町の担当部局の皆様には、養護老人ホームが置かれているこの現状をご理解いただくとともに、養護老人ホームが持つセーフティネットとしての機能と存在意義をいま一度ご確認いただきたいと思います。そして、地域包括ケアシステムの中で地域での生活が困難な高齢者の潜在的なニーズを掘り起こし、支援を必要とする高齢者の生活の確保に養護老人ホームをご活用いただきたいと思います。

委員会紹介

県外施設視察研修に学ぶ



研修委員会委員長 軽費老人ホーム 和松園 施設長 **飯 塚 辰 也**

新型コロナウイルスが5類に変更され、外出時にマスクや消毒をしていない人が増えています。世間は徐々にコロナ前の日常を取り戻しつつありますが、私たち福祉施設にとっては、今まで以上に感染リスクが高まっていると感じます。そんな状況でも県外施設視察研修は、見識を深める意味でもとても大事な行事だと思います。



特養「わかたけ青葉」のエントランス。

さて、5年ぶりとなる県外研修は、令和5年11月21日~22日、横浜市の社会福祉法人「若竹大寿会」に行ってきました。参加者は、種岡会長、大塚副会長、増田副会長ほか計8名と少人数でしたが、とても有意義な視察研修となりました。実際に現地へ行くことで、その地域の実態やそこに根付く施設の取組み等を肌で感じることができました。

若竹大寿会は、「職員一丸となって人を幸せにする、 人が大切にされる世の中を創る」という法人理念のも と、「ご利用者ファースト」、「スタッフファースト」 を実現するため様々な取り組みをしている法人です。



特養「わかたけ南」。見守りカメラと記録アプリ(自主開発)。

一日目は、東京ドームと同じ敷地面積に最先端の高齢者総合施設群が建ち並んでいる、特別養護老人ホームわかたけ青葉、老人保健施設リハリゾート青葉、サービス付き高齢者向け住宅わかたけの杜を見学し、二日目は、特別養護老人ホームわかたけ南を見学しました。建物のデザインの斬新さ、使い勝手の良さ、各スペースの広さ、ICT機器を活用した先進的な取組み等に圧倒され、竹田理事長ほか職員の皆様の熱い想いが伝わってきました。また、職員が活き活きと仕事に誇りを



もって働いている様子も感じることができました。

今回の視察研修で心に残ったことは、①竹田理事長が自ら定期的に職員全員に理念、価値観、運営方針を繰り返し伝えることで、職員が理念に共感し、仕事に対するモチベーションの向上につながっている。

②職員アンケートで職場の人間関係が良いと答えた職員が95%以上とのことで、職員同士のコミュニケーションの良さが感じられた。

③職員がライフステージに合った働きができるよう、 ワークライフバランスを支援する取組みが、「横浜グッドバランス賞」を受賞。

④竹田理事長が元東芝のエンジニアで、法人独自のICT機器(見守りカメラシステムと記録アプリケーション)を開発し、利用者状況の把握だけでなく、職員の業務負担軽減にもつながっていた。

⑤竹田理事長が建物の設計から関わり、独創的で使い勝手の良い作りになっており、多くの施設が建築コンクール受賞、グッドデザイン賞経済産業大臣賞を受賞。⑥新卒者を毎年30~40人採用しており、県外からの採用者が半数以上を占めている。ここの施設を見学すれば「自分もここで働きたい」と応募してくる学生は多いだろう。

最後に、地域性や法人の規模が違うため、同じようなことはできませんが、先進的な取組みだけでなく、利用者ファースト、スタッフファーストの取組みなど、参考になることはたくさんありました。当法人も利用者が活き活きと暮らせる場所、職員が活き活きと働ける場所になるために何ができるのかを考え、前向きにチャレンジして行こうと思います。



2019年に「スタッフファースト宣言」。リラクゼーションルームを設置。

各施設の職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは
 - もし宝くじで1億円当ったら何に使いますか
 - 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか
- ③ 好きなタレント、スポーツ選手
- ⑤ 今後どんな施設(職場)にしていきたいですか

函南・ぶなの森

(函南町)

- ① 森 鮎美(介護職員)
- ボーナスをもらったこと
- 3 松井秀喜
- (4) 世界一周
- 入居者様、職員共に笑顔ですごせる場所
- ⑥ おばあちゃんが亡くなった時に 後悔があり介護の仕事に就きま した。地域密着のぶなの森を選 びました。



高

(沼津市)

- ① 草木 崇(介護員 ユニットリーダー)
- 夫婦でマックの福袋に当選したこと (合計2つ)
- ③ 生田絵梨花(ウィッシュの吹き替えで好きになった)
- ④ 住宅ローンを返済し、残りは資産運用
- ⑤ 職員を財産と思えるような職場にして いきたい
- 紹介で入社しましたが、間違いなく 正解だった





清水松風荘

(静岡市清水区)

- ① 山下拓実(支援員)
- 趣味であるバレーボールを続けてお り、友人等から「上手くなったね。」等、褒められるよ うになったこと。
- ③ プロ野球日本ハム監督 新庄剛志監督
- ④ 家を建て、残りは貯金にします。
- ⑤ 現在も行っていますが、ご利用者自身の持っている能 力を生活の中で発揮できるような支援を継続していき たいです。
- ⑥ 法人の説明を受けた際に、資格取得や研修などスキルア ップにつながるような支援をして頂けると感じたため。

(静岡市清水区)

- ① 稲名一樹(介護職員)
- 新しいパソコンを買えたこと
- 清水エスパルス 山原怜音選手
- (4) 半分貯金、残りは高級車を買う
- ⑤ 利用者様だけでなく、職員も楽しい 笑顔になれる施設
- 職員の雰囲気もよく、キャリアの中 で挑戦したいことに取り組みやすい 環境だったから





西

(浜松市中央区)

- 鈴木大崇(相談員)
- ハーフマラソンで自己記録更新した こと
- ③ 瀧内公美 (AmazonのCMに出てい る女性)
- ④ 自宅にジムを作る
- 入所者が安心して生活でき、職員が 仕事に来たい!と思える施設
- ⑥ 役職関係なく和気藹々とした雰囲気

引佐みやまの里

(引佐町)

- 内山拓海(相談員)
- 結婚をしたこと。
- 東京03
- マイホーム購入。余ったら好きな車を購入したいです。 職員一人一人が働きやすいと感じる職場。ご利用者の皆様、職員が笑いながら過ごすことができる職場にしていきたい
- 介護職員、調理士、事務職員等多くの職員が働きやすいと 感じ、利用者一人一人の生活をより深く考え、よりよいものにしていくことができる職場であると感じました。 施設 見学をした際にも、施設長や管理職の方がユニット内で他職員と和やかにお話をされている姿を見て、職場内の風通 しがよく、この施設であれば自分の理想とする介護ができると感じたことがきっかけでした。

どうぞよるしくお願いします







会員施設の紹介

特別養護老人ホーム 炉暖の郷

【一言キャッチフレーズ】

囲炉裏を囲む暖かさで温もりの宿るふるさと

【施設概要】

・施 設 名:特別養護老人ホーム 炉暖の郷

·施設長名:後藤政美

· 運営法人: 社会福祉法人 炉暖会

・理 念: 「和・創造」

· 開 所 日: 平成15年8月15日

· 所 在 地:沼津市足高字尾上24-24

・提供サービス:介護老人福祉施設/短期入所生活介護/通所介護/

居宅介護支援事業所/包括支援センター

・定員数:100名(ユニット型個室66床、従来型多床室34床)



※詳細版はこちらから ⇒



大井川睦園ケアハウス

【一言キャッチフレーズ】

「ご利用者から選ばれる施設を構築し、常にその質の向上に対し全職員が努力貢献いたします」

【施設概要】

・施 設 名:大井川睦園ケアハウス

·施設長名:鈴木克哉

· 運営法人: 社会福祉法人厚生会

・理 念:『基本的人権の尊重』『健全な援護と支援の実現』

『社会的自立の援助』『地域福祉との密接な連携』

· 開 所 日: 平成15年6月15日

・所 在 地:焼津市高新田2326番63

・提供サービス:軽費老人ホーム(ケアハウス)

· 定 員 数:30名



※詳細版はこちらから ⇒



特別養護老人ホーム 第二砂丘寮

【一言キャッチフレーズ】

「笑顔と信頼し

【施設概要】

·施 設 名:特別養護老人ホーム 第二砂丘寮

·施設長名:小池利樹

· 運営法人: 社会福祉法人 三和会

・理念:『天の世・地の利・人の和』をモットーとして、高齢者の人権を尊重し、

健康で明るく、生きがいのもてる生活空間を創造する。

·開所日:平成8年4月1日

・所 在 地:浜松市中央区田尻町1182番地 ※詳細版はこちらから ⇒

・提供サービス:介護老人福祉施設/短期入所生活介護/居宅介護支援

· 定 員 数:特養 [81名] /短期 [10名]





知事新年挨拶県庁訪問

正副会長の活動

令和6年1月5日、正副会長は新年挨拶のため川勝知事 を訪問しました。

写真左から、深谷常務理事 (事務局長)、増田副会長 (西 部支部長)、種岡会長、川勝知事、大塚副会長(東部支部 長)、前田副会長(中部支部長)。





令和5年度老施協活動報告(令和5年11月1日~令和6年3月31日) ☆は予定

【老施協】

★11月10日 県内3地区で「介護の日」街頭キャンペーンを実施 ★12月7日 自民党介護議連への要望活動(種岡会長、前田副会長) 自民党厚生連への要望(種岡会長、前田副会長)

第8回正副会長会議

★12月8日 ★12月8日 第3回理事会

令和6年3月任期満了に伴う役員等の改選等

第9回正副会長会議 ★1月5日

★1月24日 第10回正副会長会議

★2月20日 第11回正副会長会議

★2月20日 事業推進検討会議

令和6年度支部・委員会活動計画案の調整等

第4回理事会 ☆3月8日 ☆3月21日 第2回総会

令和6年度事業計画案‧一般会計収支予算案

【企画経営委員会】

第4回委員会 ★11月20日

食費に関するアンケート調査結果、DX化調査・研究、新型コロナ感染症対応等 ★1月22日 第5回委員会

令和5年度活動報告と令和6年度事業計画等

【広報委員会】

★11月16日 第3回委員会

[しず老施協] 第69号の企画、老施協ホームページ

【研修委員会】

★11月15日 介護力向上研修 ~研究発表Again!~

★11月21日~ 22日 県外施設視察研修

★1月15日 第5回委員会

令和5年度活動報告と令和6年度事業計画等 施設長研修、

☆3月21日 施設長研修

【次世代委員会】

★11月11日「介護の日」中心にPRポスター作製等啓発活動を実施

学生セミナー(知徳高校)の開催 ★1月24日

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★12月15日 第6回実行委員会

第12回大会の開催報告、第13回大会の概要等

★2月8日 第7回実行委員会

【養護委員会】

★11月24日 第2回委員会

★12月 養護老人ホーム実態調査報告書配布

【特養委員会】

★11月 特別養護老人ホーム待機・入所状況調査報告書配布

第4回委員会 ★1月23日

令和5年度活動報告及び令和6年度事業計画等

【地域ケア委員会】

★1月11日 第2回委員会

令和5年度活動報告及び令和6年度事業計画等

令和6年能登半島地震の義援金募集について

老施協では、令和6年能登半島地震の義援金を募集しています。皆さんのご協力をお願いいたします。

令和6年能登半島地震義援金 義援金名

令和6年1月12日(金)から2月29日(木)を目途 募集期間

3 募集単位 会員施設単位にて静岡県老施協に送金願います。

4 募集方法 本会指定銀行口座への振込

受入口座 金融機関 静岡銀行 本店営業部 普通預金NO.1823954

口座名義「老施協 令和6年能登半島地震義援金 代表 種岡養一」



編集後記

前任者から引継ぎ、静岡県老施協広報委員会広報委員にな って数年が経とうとしています。メンバーの皆さんは施設長 の方も多くいらっしゃるため毎回緊張していますが、前任者 から「みんないい人で助けてくれるから大丈夫」と言われた とおり、何も分からず役にも立たない私ですが温かく受け入 れていただいていることに感謝しています。委員長のいろい ろなお話も楽しみのひとつです。

コロナ禍で委員会はウェブ参加がほとんどですが、活動は 徐々に外に行かせていただく機会も増えてきました。他施設・ 世間の先駆的な取り組みについて知ることや、それらを意識 して考えるというような機会がもてることに刺激をうけてい ます。

高校生になった我が子がある日「高校生活はもっとキラキ ラしていると思ったのに」と話かけてきたことがありました。 内心充分キラキラ楽しそうですけど (笑) と思いましたが [そ うなんだね」と返事をしました。

確かに自分も高校生活を思い返せばその頃はいろいろ必死 でしたが、今となれば楽しかったと思えます。ものごとの捉 え方によってモチベーションに大きく影響するなと考えさせ られました。

ついネガティブ思考が優先しがちですが、前向きにものご とを捉えるほうがいい方向にすすむのかなと思い「やる気ス イッチ」をエイッと押して頑張ろうと思います。

(益田八千代)